

植 防 い し か わ

令和4（2022）年3月18日 発行

編集・発行

公益社団法人 石川県植物防疫協会

 金沢市田中町か26-1
 石川県農業共済会館内
 TEL 076-239-1511

印刷 株式会社 共 栄

No. 159

はじめに

会員の皆様をはじめ、関係機関の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この冬は昨シーズンに比べて降雪日数、降雪量が多く、寒い日が多い冬でしたが、ここ数日気温も高くなりすっかり春めいてきたように思います。すでに来年度の準備に入っている方も多いのではないのでしょうか。当協会でも、新規登録農薬の現地適応性試験（実験展示圃）について実施薬剤及び実施箇所を決定したところであり、また日植防から依頼のあった未登録農薬に係る薬効・薬害試験及び作物残留試験の日程調整など実施準備、令和3年度第3回理事会（令和4年度予算理事会）の開催など、令和4年度は動き始めております。

新型コロナウイルスの感染状況が今後どうなるかは不透明ですが、これからもソーシャルディスタンスを取りながら、皆様と連携を密にして仕事を進めてまいります。

令和3年度 殺菌・殺虫剤実験展示圃成績検討会の概要

令和3年11月30日に標記の検討会を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、リモート（Zoom）にて実施しました。

検討会は、水稻・大豆の部では農業試験場中央普及支援センターの田中澄恵担当課長、野菜の部で同センターの津島香織担当課長、果樹の部では同センターの中野眞一担当課長の司会・進行で行われました。検討対象薬剤数は、水稻6剤、大豆1剤、野菜8剤、果樹10剤、合計25剤でした。検討結果は次表のとおりです。



作物名	薬剤名	対象病虫害	実施機関	評価	委託メーカー ★連絡窓口会社
水稻	エクシード粉剤DL	カメムシ類 ツマグロヨコバイ	羽咋農林事務所 奥能登農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	イソクラスト普及会 ★ダウ・アグロサイエンス日本株式会社
	ヨーバルプライムEV 箱粒剤	いもち病 紋枯病 イネミズゾウムシ	南加賀農林総合事務所 津幡農林事務所	普及性あり 普及性あり	バイエルクロップサイエンス

作物名	薬剤名	対象病虫害	実施機関	評価	委託メーカー ★連絡窓口会社
水稻	C s. オリゼリディア E V 箱粒剤	いもち病 紋枯病 イネドロオイムシ	津幡農林事務所 羽咋農林事務所	普及性あり 普及性あり	オリゼメート普及会 ★ MeijiSeika ファルマ
	ファーストオリゼリ ディア粒剤	いもち病 イネドロオイムシ	中能登農林総合事務所 奥能登農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	オリゼメート普及会 ★ MeijiSeika ファルマ
	ブーンパディート箱粒 剤	いもち病 イネミズゾウムシ	加賀農林事務所 津幡農林事務所	普及性あり 普及性あり	クミアイ化学工業
	ブーンレパード箱粒剤	いもち病 紋枯病 イネミズゾウムシ	南加賀農林総合事務所 石川農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	クミアイ化学工業
大豆	ザンプロDMフロアブ ル	茎疫病	加賀農林事務所 中能登農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	B A S F ジャパン
野菜	カナメフロアブル	【ねぎ】 さび病	中能登農林総合事務所	普及性あり	カナメフロアブル普及会 ★協友アグリ
	ベリマーク S C	【ねぎ】 ネキリムシ類	南加賀農林総合事務所	普及性あり	ベリマーク SC 協議会 ★クミアイ化学
	プリロッソ粒剤	【ねぎ】 ハモグリバエ類 アザミウマ類	石川農林総合事務所	普及性あり	プリロッソ粒剤協議会 ★日産化学
	カンパネラ水和剤	【ねぎ】 べと病 黒斑病	中能登農林総合事務所	普及性あり	クミアイ化学
	メジャーフロアブル	【ブロッコリー】 黒すす病	珠洲農林事務所	普及性あり	日本農薬
	プロフレア S C	【ブロッコリー】 コナガ ハスモンヨトウ	加賀農林事務所	普及性あり	三井化学アグロ
	コテツベイト	【ほうれんそう】 ハウレンソウケナ ガコナダニ	奥能登農林総合事務所	普及性あり	B A S F ジャパン
	トルネードエース D F	【きく】 ハスモンヨトウ	県央農林総合事務所	普及性あり	クミアイ化学
果樹	ニマイバー水和剤	【かき】 炭疽病	羽咋農林事務所	普及性あり	住友化学
	エコショット	【キウイフルーツ】 かいよう病	南加賀農林総合事務所	普及性あり	クミアイ化学
	セルカディス D フロア ブル	【なし】 黒星病	石川農林総合事務所	普及性あり	B A S F ジャパン
	兼商ヨーバルフロアブ ル	【なし】 シンクイムシ類	南加賀農林総合事務所 県央農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	アグロカネショウ
	フルーツセイバー	【ぶどう】 うどんこ病	津幡農林事務所	普及性あり	フルーツセイバー協議会 ★アグロカネショウ
	サンケイ園芸ボルドー	【ぶどう】 べと病	奥能登農林総合事務所	普及性あり	サンケイ化学
	ビオネクト	【ぶどう】 黒とう病	奥能登農林総合事務所	普及性あり	サンケイ化学

作物名	薬剤名	対象病虫害	実施機関	評価	委託メーカー ★連絡窓口会社
果樹	カナメフロアブル	【ぶどう】 灰色かび病	南加賀農林総合事務所 中能登農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	カナメフロアブル普及会 ★協友アグリ
	セルカディスDフロアブル	【もも】 灰星病	県央農林総合事務所	普及性あり	B A S F ジャパン
	セルカディスDフロアブル	【りんご】 褐斑病 斑点落葉病	県央農林総合事務所	普及性あり	B A S F ジャパン

令和3年度 主要病虫害の発生状況

石川県農林総合研究センター 病虫害防除室

水稻(24,800ha)

病虫害名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
育苗期の病害	平年：やや少 前年：やや少	(1)育苗期の細菌病では、もみ枯細菌病および苗立枯細菌病が少発生した。 (2)ピシウム、フザリウムによる苗立枯病の発生は少なかった。 (3)苗いもちの発生が見られた。	(1)発生地域は限定されている。種子消毒や温度管理など、個々の育苗管理の不徹底によるものと考えられる。
葉いもち	平年：やや多 前年：多	(1)本田初発は7月6日（平年7月2日）に確認された。 (2)梅雨明けは7月14日ころ（平年7月23日）と早かったが、7月上旬に感染好適条件が集中し、一部の圃場で葉いもちが発生した。	(1)前年の穂いもちの発生はやや多であった。 (2)BLASTMによるいもち病感染好適日の出現は7月上旬に集中し、平年より多かったが、それ以外では少なかった。 (3)防除の行き届いていない圃場で局地的に発生が見られた。 (4)一部で苗いもちの本田持ち込みによる発生が見られた。
穂いもち	平年：多 前年：多	(1)葉いもちの発生がほとんど見られなかった圃場でも、穂いもちが発生、拡大した。	(1)8月中旬に降雨期間があり、感染しやすい条件となった。 (2)無農薬栽培や谷あいの常発圃場で激発状態になった。また、平場においても主に晩生品種で発生が見られた。
紋枯病	平年：やや多 前年：並	(1)初発は7月2日（平年6月30日）に確認された。	(1)夏季の高温により垂直進展が進んだ。
白葉枯病	平年：少 前年：並	(1)全般的に発生はわずかだった。	(1)用水路の整備により病原菌の越冬源が減少している。 (2)大雨、台風による冠水が少なかった。
稲こうじ病	平年：やや少 前年：やや多	(1)全般的に発生は少なかった。	(1)中生の出穂期前後は少雨であり、発病が抑制された。
イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	(1)本田への侵入盛期は5月第4半旬で、発生は平年並であった。	(1)発生は地域間で差が見られ、一部の山間部でやや多かった。 (2)予防粒剤が普及し、発生を抑えている。
イネドロオウムシ	平年：やや少 前年：並	(1)幼虫の加害は6月第2半旬から散見され、発生はやや少なかった。	(1)全般的に高温多照で推移し、発生は一部の山間部で局地的に見た以外は少なかった。 (2)予防粒剤が普及し、発生を抑えている。

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ツマグロヨコバイ	平年：並 前年：やや少	(1)本田すくい取りで、6月18日に七尾市の定点調査は場で初確認した。 (2)発生は平年並であった。	(1)前年の発生は多かったが、本年はある程度の積雪があり、発生は平年並であった。 (2)前年に被害が発生した所では、畦畔除草、予防粒剤の施用や基幹防除を徹底した。
セジロウンカ	平年：やや少 前年：やや少	(1)本田すくい取りで、6月21日（平年6月26日）に羽咋市の定点調査は場で初確認した。 (2)発生はやや少なかった。	(1)6月下旬以降に県内への飛来があったが、飛来量はやや少なかった。
コブノメイガ	平年：やや少 前年：少	(1)発生はやや少なかった。	(1)飛来量はやや少なかった。
斑点米カメムシ類	平年：並 前年：やや少	(1)6月下旬に実施した定点（27地点）の雑草地における生息密度調査で、1地点当たりの平均成虫数は6.1頭で平年と同様に多かった。 (2)7月下旬に実施した本田侵入調査で、1地点当たりの平均成虫数は7.6頭で平年と同様に多かった。なお、前年多かったクモヘリカメムシは、前年の6%と少なかった。	(1)注意報を発表して防除を呼びかけた。 (2)前年は暖冬・少雪によりクモヘリカメムシが多発したが、本年は前年より1月の気温が低く積雪も多かったことから越冬密度が減少した。 (3)斑点米の発生は平年並であった。

大麦(1,340ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
赤かび病	平年：少 前年：並	(1)少発生であった。	(1)近年、少発傾向にある。
オオムギ雲形病	平年：少 前年：多	(1)散発的に発生が認められた。	(1)近年、少発傾向にある。
裸黒穂病	平年：やや多 前年：並	(1)少発傾向の中で、河北潟で集中的に発生が見られた。	(1)一部の減農薬栽培地区で発生が見られた。 (2)種子更新、種子消毒の不徹底によるものと考えられる。
うどんこ病	平年：少 前年：並	(1)発生は遅く、少なかった。	(1)近年増加傾向にあったが、防除が徹底されるようになってきた。

大豆(1,630ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
紫斑病	平年：少 前年：少	(1)発生は少なかった。	(1)近年、裂莢しづらい品種が普及したため、少発傾向にある。
茎疫病	平年：少 前年：やや少	(1)発生は少なかった。	(1)近年、少発傾向にある。
ハスモンヨトウ	平年：やや多 前年：並	(1)フェロモントラップの誘殺数は、5月以降、平年よりやや多く推移した。 (2)大豆圃場の食害はやや多かった。	(1)基幹防除により発生は抑えられた。
フタスジヒメハムシ	平年：やや少 前年：並	(1)発生はやや少なかった。	(1)8月の多雨・日照不足により発生は抑えられた。 (2)播種時処理剤の普及及び8月の基幹防除により発生は抑えられた。
ハダニ類	平年：やや少 前年：並	(1)発生はやや少なかった。	(1)8月の多雨・日照不足により発生は抑えられた。

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
吸実性カメムシ類	平年：並 前年：並	(1)発生は平年並であった。	(1)予察灯の誘殺数は、7月はやや多かったものの、8月はやや少なく、全般に平年並であった。

なし(135ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年：並 前年：並	(1)発生は平年並であった。	(1)平年並の発生で推移した。 (2)近年、抵抗性品種への切り替えにより発生は減少傾向である。
黒星病	平年：並 前年：やや少	(1)一部の圃場で発生が見られた。	(1)平年並の発生で推移した。
ハダニ類	平年：並 前年：並	(1)発生は平年並であった。	(1)5月～7月にかけて、全般に高温多照傾向で推移し発生が助長されたが、8月の多雨・日照不足により発生は抑えられた。
カメムシ類	平年：やや多 前年：やや少	(1)発生は前年よりやや少なかったが、平年よりもやや多かった。特に、中山間地で多かった。 (2)水銀灯への飛来数は、クサギカメムシ、チャバネアオカメムシでは平年よりも多く、ツヤアオカメムシは平年より少なかった。	(1)前年の発生は多かった(注意報発令)が、本年は前年より1月の気温が低く積雪も多かったことから越冬密度が減少した。 (2)虫種別では、特にツヤアオカメムシの減少が大きかった。

りんご(47ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年：並 前年：並	(1)全般に発生は平年並であった。	(1)防除も含め栽培管理が行き届いていない園で発生が見られた。
褐斑病	平年：やや多 前年：並	(1)発生はやや多かった。	(1)防除も含め栽培管理が行き届いていない園で多発した。
ハダニ類	平年：やや多 前年：やや多	(1)発生はやや多かった。	(1)5月～7月にかけて、全般に高温多照傾向で推移し発生が助長されたが、8月の多雨・日照不足により発生は抑えられた。 (2)山間部で発生の多い場所が見られた。

ぶどう(157ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並 前年：少	(1)全般に発生は少なかった。	(1)5月中旬以降気温が上昇し、発生が抑制された。

かき(297ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：多 前年：多	(1)発生は多となった。	(1)梅雨期および8月下旬以降の気温低下とともに発病が進展した。 (2)春の霜害による軟弱徒長枝の発生が感染を助長した。
カメムシ類 (クサギカメムシ)	平年：やや多 前年：やや少	(1)発生は前年よりやや少なかったが、平年よりもやや多かった。 (2)水銀灯への飛来数は、平年よりも多かった。	(1)前年の発生は多かった(注意報発令)が、本年はある程度の積雪があり減少した。

すいか(296ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
つる枯病	平年：やや多 前年：並	(1)6月上旬から発生が認められた。	(1)6月上旬から発生が認められ、梅雨期間に急速に進展した。7月中旬以降の少雨により発病の進展が抑制された。
炭疽病	平年：並 前年：並	(1)発生は平年並であった。	(1)8月上旬の高温により発生は抑制された。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	(1)発生は平年並であった。	(1)5月～6月にかけて、全般に高温多照傾向で推移し発生が助長されたが、7月上旬の多雨・日照不足により発生は抑えられた。

夏秋きゅうり(54ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：並 前年：並	(1)発生は平年並であった。	(1)8月以降の高温により発生は抑制された。

冬春トマト(20ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：少 前年：並	(1)4月中旬から発生が認められたが、大きな進展はなく少発生で推移した。	(1)4月～5月上旬は低温傾向にあったため進展したが、5月中旬以降気温が上昇し、発生が抑制された。

秋冬ダイコン(226ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
コナガ	平年：やや少 前年：やや少	(1)フェロモントラップの誘殺数は平年より少なかった。 (2)調査ほ場における発生はやや少なかった。	(1)本年は前年より1月の気温が低く積雪も多かったことや、7月上旬及び8月の多雨・日照不足により発生は抑えられた。

夏秋キャベツ(13ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ヨトウガ	平年：並 前年：並	(1)フェロモントラップの誘殺数及び調査ほ場における発生は平年並であった。	(1)シロイチモジヨトウ等の他のヨトウムシ類の発生が多く、それらの防除により、ほ場での本虫の発生は抑えられた。

夏ねぎ(25ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：やや少 前年：並	(1)発生はやや少であった。	(1)近年、少発傾向にある。

きく(4ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年：やや少 前年：やや少	(1)発生はやや少であった。	(1)8月の高温・多照により発生は抑制された。

編 集 後 記

新型コロナウイルスが広まって2年が経過してしまいました。これを機会に当協会では、これまで大人数で集まっていた成績検討会などは Zoom による Web 会議になりました。こんなことでもない限り仕事の断捨離はなかなかできないものなののでしょうか。とは言うものの対面が必要な場面も当然あります。今後、会員の皆様との情報交換が早く便利に、安心して行えるよう努めてまいります。